

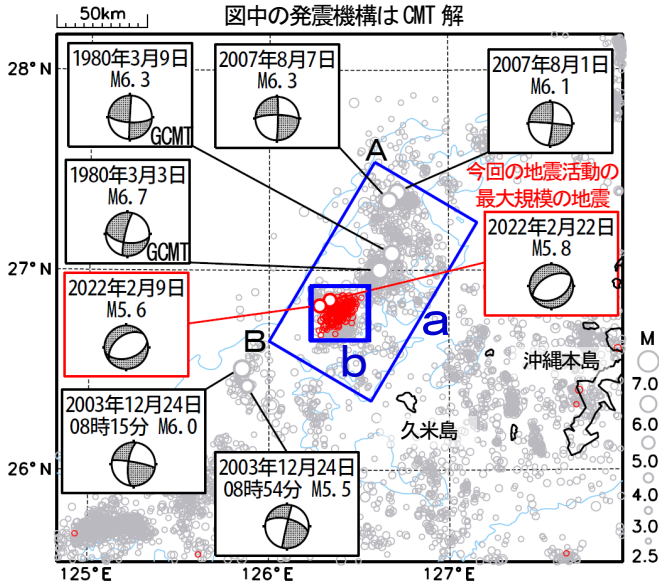
# 沖縄本島北西沖の地震活動

震央分布図

(1980年1月1日～2022年2月28日、  
深さ0km～60km、 $M \geq 2.5$ )

2022年1月30日以降の地震を赤色で表示

図中の発震機構はCMT解

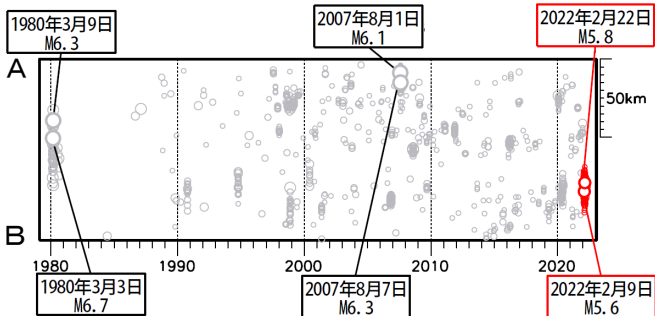


図中の青色の等値線は水深1500mを示す。

※1980年3月3日の地震の発震機構はGlobal CMTによる。

領域a内の時空間分布図（A-B投影）  
(1980年1月1日～2022年2月28日)

今回の地震活動の  
最大規模の地震

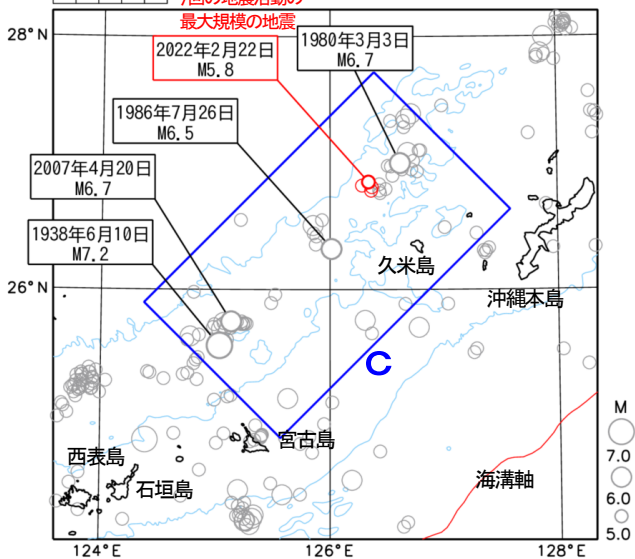


震央分布図

(1919年1月1日～2022年2月28日、  
深さ0km～60km、 $M \geq 5.0$ )

2022年1月30日以降の地震を赤色で表示

今回の地震活動の  
最大規模の地震

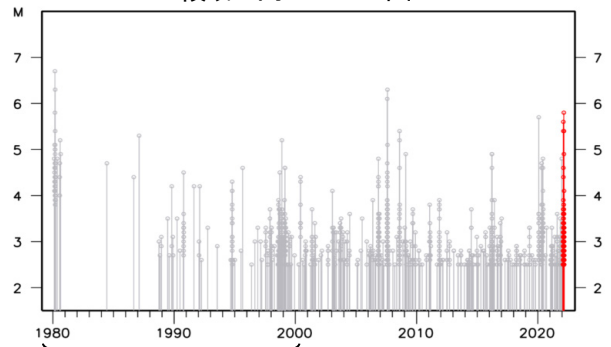


図中の青色の等値線は水深1500mを示す。

沖縄本島北西沖では、2022年1月30日から地震活動が活発になり、2月28日までに震度1以上を観測する地震が13回（震度2：5回、震度1：8回）発生している。そのうち最大規模の地震は2月22日05時52分に発生したM5.8の地震（最大震度2）であった。この地震の発震機構（CMT解）は、北北西-南南東方向に張力軸を持つ正断層型である。この地震活動は、沖縄トラフの活動で陸のプレート内で発生している。

1980年1月以降の活動をみると、今回の震央周辺（領域a）では、M5.0以上を最大規模とした地震活動が時々みられる。1980年2月から3月にかけて活発化した際には、同年3月3日にM6.7の地震（最大震度3）が発生した。

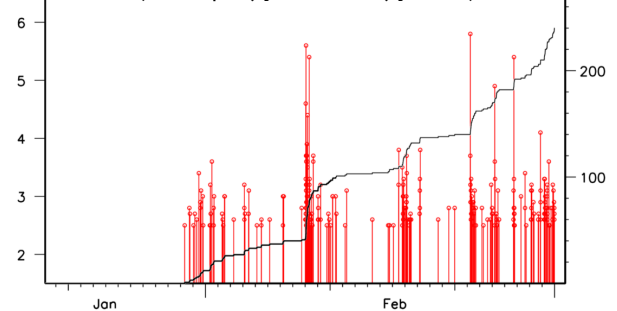
領域a内のM-T図



(この期間の検知能力は  $M > 2.5$ )

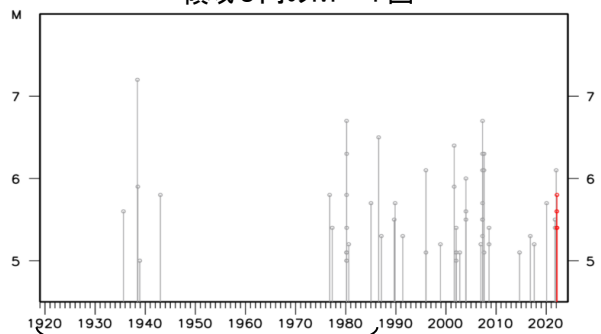
領域b内のM-T図及び回数積算図

(2022年1月20日～2月28日)



1919年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）ではM6.0以上の地震が時々発生している。そのうち、1938年6月10日に発生したM7.2の地震（最大震度4）では、宮古島平良港で1.5m程度の津波が目撃されており、栈橋の流出などの被害が生じた（被害は「日本被害地震総覧」による）。

領域c内のM-T図



(この期間は検知能力が低い)